

# 令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

福井市安居中学校

## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

西安居自治連合会長 細川善右エ門氏  
安居公民館長 稲葉重和氏  
安居育成会子ども会会長 内田京典氏  
安居中学校PTA会長 西尾一秋氏  
安居中学校PTA副会長 渡辺舞氏

地域コーディネーター (2名)

公民館長、チームモアイ代表

### (2) 協議会の内容

開催期日

- ①令和元年6月17日 小中合同
- ②令和元年11月13日
- ③令和2年3月17日 小中合同

協議内容

- ①・スクールプランに基づく教育方針  
・年間の学校行事予定
- ②・働き方改革と行事精選の方向性
- ③・学校評価の報告、説明  
・来年度の学校行事の変更について

### (3) 協議会における成果と課題

学校の働き方改革、業務改善等について委員の方と意見交換が行われ、教育委員会が進める方針を御理解いただいた。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

公民館や地域おこしグループなどの安居地区の関係機関・諸団体と協働し、地域との結び付き、恵まれた自然環境、地域の特色を生かした教育実践で、郷土に誇りをもち、郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる生徒の育成を図る。

### (2) 活動の実際

#### ① 「小中合同ボランティア」

小学校4年生から中学3年生までが縦割りグループで行う小中合同ボランティアが10月24日に実施された。昨年までは小学校と中学校の委員会を中心に進められていたが、今年度は、中学3年生が企画、運営を行った。生徒が公民館や地域施設、関係町内会長さんと連絡を取り、それぞれの要望を聞き取り、現地調査を行った上で、具体的な活動内容を考えた。また、活動場所ごとにボランティアのテーマ、活動内容、ボランティアで目指す姿、意気込みなどを小学校でプレゼンし、活動場所の希望を募った。当日は3年生リーダーが縦割りのグループをまとめ小学生を励ましながら活動を行った。

中学3年生が中心となったことで、中学生に対しては、上級生の意気込みが下級生に伝わったこと、また、小学生に対しては、プレゼンを行い、小学生の興味関心が高まったことで、今までより意欲的な活動となった。今回は準備期間が短かったこともあり、清掃中心の活動となったが、今後は、関係機関と連携をとり、人と人との交流のある活動も取り入れていきたい。



校区内介護施設での活動の様子



学年掲示板にまとめた  
小中合同ボランティアの学び  
(236cm × 270cm)

## ② 「安居クリアファイルをデザインしよう」

生徒考案で制作された安居のキャラクター「アゴジン」を活用し、地域貢献をする活動として、3年生を中心にクリアファイルのデザインを行った。考案されたデザイン画は、校内に掲示され、全校生徒と教員の投票により、2点が選ばれた。このデザインはクリアファイルに製品化され、生徒交流活動で配布したり、学校視察関係者や公民館イベント等で配布したりと、安居PRのために広く活用している。



入賞したファイルデザイン

この活動は、昨年に引き続き、2回目となる。昨年3月の「安居ふるさとづくり委員会」で委員の方にファイルを配布し、生徒の安居への思いを伝えたところ、好評をいただいた。本年度も、「安居ふるさとづくり委員会」で配布し、安居地区内外の団体での活用をお願いする予定である。

## (3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・安居地区内関係機関との連絡調整
- ・小中合同ボランティアにおける助言
- ・地域貢献、地域PR等における助言
- ・地域人材の紹介

## (4) 特に工夫した事項

- ・生徒中心の活動ということで、小中合同ボランティアでは、中学3年生を中心に計画が行われ、実施された。計画の段階では、施設関係の方、町内会長さんと連絡を取り、施設側や各町内の希望を把握した。その後、現地調査を行い、活動の方法、役割分担、準備物などの計画を立てた。また、積極的に活動ができるようにと、小学校で時間を作っていただき、ボランティアに参加する小学4年生以上の児童全員の前で、中学3年生が活動ごとにプレゼンを行った。このことで、小学生は興味関心が高まり、意欲的な活動に繋がったと考える。
- ・中学生が考案し2016年に選定された安居のキャラクター「アゴジン」であったが、その後のあまり具体的な活用がなかったため、安居をPRしかつ日常的に親しめる活用法として、昨年度、生徒からクリアファイル制作の案が上がった。昨年度は、3年生が担当する地域貢献活動の1つのグループが担当していたが、本年度は、コンテスト方式で、3年生全員が原画を考え、全校生徒が投票を行うという形式をとった。

## (5) 成果と課題

今までは、地域との交流を目的として活動を行っていたため、交流行事に追われて生徒が活動しているという姿が見られた。来年度は、行事にとらわれず、生徒の学びの1つとして交流をとらえ、小中や地域と日常的な交流の機会を多くもつ予定をしている。中学校としての目標、小学校としての目標、地域や社会のニーズなどお互いの思いが一緒になった形の交流を企画することが大切である。

本年度は、地元の方との交流の場として学校を利用させていただく「安居カフェ」、講演やふるさとについてのアンケートもとにふるさとを考え家で話をするという親子で参加する道徳、保護者や地域の方も一緒に参加し、意見交換をする「My learning 2020」を実施した。今後も地域社会のニーズにあった活動を企画実施し、社会に参画する力を育成していきたいと考える。